

社会の要請（新学習指導要領との関連）

急速に社会が変化しても、それぞれに思い描く幸せを実現できる「生きる力」を育む

- ・実際の社会で生きて働く「知識・技能」の習得
- ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

学校教育目標

- ・考える子
確かな学力、基礎的な知識・技能とそれを活用する力、学習意欲などを身に付けた児童の育成
- ・仲よくする子
他者と協力して、進んで課題を解決しようとする児童の育成
- ・健康な子
心身ともに健康で、最後まで粘り強くやりぬく児童の育成

児童の実態

- ・素直に学習に取り組める児童が多い。
- ・友達と関わって学習することが好きな児童が多い。
- ・基礎・基本的な学力が身につけていない児童がいる。
- ・主体的に考えたり行動したりすることが苦手の児童が多い。

〈研究主題〉

深い学びを実現する授業づくり
～分かったたのしい算数の授業を通して～

目指す児童像

低学年

分かったことを日常生活に結び付けて考える子

具体物、図、数、式などを用いて問題を解決し、その過程や結果を相手に分かるように説明することができる子

中学年

友だちの考えを受け止め、分かったことを日常生活に生かそうとする子

図や式などを用いて問題を解決したり、発展的に考察したりして、それらの過程や結果を伝え合うことができる子

高学年

友達や自分の考えを比較・検討し、分かったことを使って新しい課題に挑戦する子

目的に応じて図や式などを用いて問題を解決したり、統合的・発展的に考察したりして、それらの過程や結果を伝え合うことができる子

チャレンジ

主体的に考えたり行動したりすることができる子

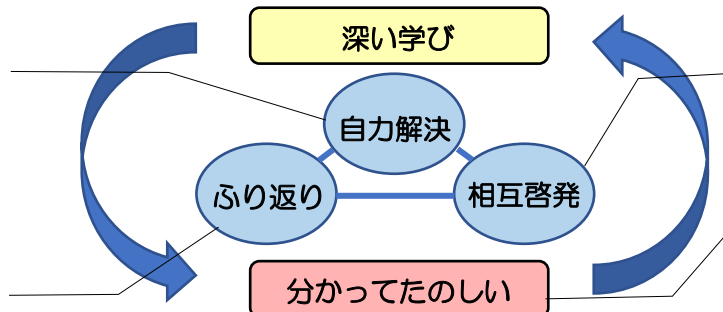
研究仮説

深い学びの実現には、「分かったたのしい」という児童の思いの醸成と、深い学びへと導く教師の手立てが必要だろう。また、深い学びが実現できれば、より「分かったたのしい」気持ちが増し、次への深い学びへと向かうだろう。

主題に迫る手立て

- ・ヒントカード
- ・既習学習との関連付け
- ・考えるツールの提示

- ・算数日記
- ・算数新聞
- ・視点の提示
- ・日常生活との関連付け



- ・話型
- ・話し合いカード
- ・学習形態の工夫
- ・問題の焦点化

- ・分かったたのしい姿の位置付け
- ・導入の工夫
- ・日常生活との関連付け
- ・知識、技能の確実な定着